令和6年度 分掌ごとの成果と課題・課題解決の具体的方策

重点	分掌	目標	目標達成のための具体的方策	令和6年度の成果と課題	評価	課題解決のための具体的方策
目標					A+∼C	
	教務部	学習評価方法の工夫および学習指導方法の改善を 推進する。	(1)相互授業参観週間や研究授業等を活用して日々の授業における各教員の授業実践の共有を推進する。 (2)授業評価アンケートや保護者アンケートで改善点を確認し、学校全体での共有を図る。	(1)相互授業参観週間を設けて相互授業参観を呼びかけ、 全職員の約70%が実施した。全職員の実施と学科の枠を超 えた授業実践の共有を推進するのが課題である。 (2)授業評価アンケートを実施して全職員で結果を共有で きた。結果を的確な評価の実施と指導の改善につなげるの が課題である。	В	(1)相互授業参観週間の実施時期と期間を検討する。 (2)アンケート結果と相互授業参観が的確な評価の実施と指導の改善につながるような、現職教育を実施する。
確かな		情報機器などの管理・活用	(1)授業や校務が円滑に行えるように、情報機器やネットワークの整備・メンテナンスを行う。 (2)新たに配置された生徒1人1台タブレットの使い道を検討する。	頼し、授業や校務に支障が出ないように対応した。電子黒	В	(1)機器の異常を放置せず、直ちに事務室経由で業者に対応を依頼する。 (2)ICT 支援員活用事業の一環として、ICT 支援員の協力を依頼し ICT を活用した授業づくりを推進する。
な学力の育成	機械科	基本的な公式の活用がで きるようにする	機械設計、原動機、自動車工学といった授業内で繰り返し、この種の問題に継続して取り組む。	1年生の計算技術検定3級の合格者が31名であった。2・ 3年生での授業内の反復学習もできた。	A	1年次の計算技術検定を大切にしつつ、今後 も様々な教科で反復学習を継続する。
,,,,	電気科	専門科目における基礎学力の充実	(1)専門科目では、問題を解く力をつけるため、問題 演習や確認テストを行なう。 (2)放課後などの時間帯や長期休業日を活用し、生徒 の資格取得を支援する。	(1)(2)を実施した結果、2 年生において第 2 種電気工事士 の筆記試験合格率は 100%であった。	A	1年生の3学期から、資格に関連した演習問題や技能問題などに取り組ませる。2年生の年度当初に問題を解かせ、弱点部分を見つけ対策していく。
	建築科	生徒の学習意欲の向上を図る	(1)社会人講師の授業や現場見学、実習などの実践的な学習の機会を適切な時期に実施する。 (2)科職員で協力して、生徒が予習や復習に活用できる教材研究をする。 (3)授業等で感想やアンケートを活用して、生徒自己評価の向上を目指す。	(1)社会人講師の授業を11月と3月に実施し、森林研修などの実践的な学習を実施できた。 (2)動画の手順書を作成して生徒が各自のペースで予習や復習できるようにした。 (3)定期的にアンケートを実施し、授業で感じたことを振り返る事で生徒自己評価の向上につながった。	A	引き続き現場見学などの実践的な学習機会を 確保し、明確なイメージを持たせることで生 徒の学習意欲の向上につなげていく。

22

連携		THE SHE SHE SHE SALES	(A) I have a state of the state			W. W. C.
20日 分の将来像をしつかりに選立させ、そこに立るため、作る見極めることができるよう象子ととができた。より具体できるとのないようにさせてそのためたも判断材料となる指摘を対して関連を超える生産を外部機関と連携しなが、50プローしていく。 (2)連続に関する限や(1)に加えて、1・2年生にはより具体の定数とと地域と 素本教育機関との連携 (2)源外や権害に対して個人的に (1)源外・権害がよりに関し、各年及を支援し、今年及を変生 (2)源外・権害がよりでは、 (2)がより主とかできた。 (2)・2年年に対し、 (4) 選択・企業を対して関係 (2) できたい、 (4) できたいできたい、 (4) できたいできたいできたい、 (4) できたいできたい、 (4) できたいできたいできたい、 (4) できたいできたいできたいできたいできたいできたいできたいできたいできたいできたい		17777132 27777132 177771				進路に関しては年間を通して様々な場面で、
# 2 かの自分に必要な情報や知識を得るために、デイタ (2) 海路に関する限や(1)に加えて、1・2 年年にはより見 (松のた産治療では、連路海峡に 1)にの (3)を海峡 音を強える生産を外種機関と連携したが (3)を海峡 音を強える生産を外種機関と連携したが (3)を海峡 音を強える生産を外種機関と連携した (3) 条件 乗む 1 が 3 当者をおおり、外部機関と連携して連絡 (3) 条件 乗む 1 が 3 当者をおおり、外部機関と 2 と 2 3 月に行い、進路海峡に (3) 条件 乗む 1 が 3 当者をおおり、外部機関と 2 と 2 3 月に行い、進路海峡に (3) 条件 乗む 1 が 3 当者をおおり、外部機関と 2 と 2 3 月に行い 2 と 2 3 月に行い 2 と 2 3 月に行い、進路海峡に (3) 条件 乗む 1 が 3 当者を活力 2 と 2 を 3 月に行い 2 と 2 3 月に行い 2 と 2 3 月に行い 2 2 2 3 年に対い 2 2 2 3 年に対い 3 2 2 2 2 3 2 2 2 2 3 2 2 2 3 2 2 2 2		適切な進路選択	- 72 - 77 - 77 - 78			意識づけさせ、3年生の進路決定直前になっ
(3) 熱語等学や他及る生徒を外部機関と連携したが (2) 今年度 1 名談書音がおり、外部機関と連携して進路 (2) 今年度 1 名談当音がおり、外部機関と連携して進路 (2) 今年度 1 名談当音がおり、外部機関と連携して進路 (2) できた。 (3) 今年度 1 名談当音がおり、外部機関と連携して進路 (2) できた。 (3) 今年度 1 名談当者がおり、外部機関と連携して進路 (2) できた。 (4) 年度 1 第十ろことで、参野には最低 60%、できれば 70% のこ差版得率は 74%となった。 乙種全組取得者は 6 名であ 20 元差版得率は 74%となった。 乙種全組取得者は 6 名であ 20 元金 (2) 1 年年は下陽り 2 元金 (2) 1 年年は下場の 2 元金 (2) 1 年年は下陽り 2 元金 (2) 1 年年は下陽り 2 元金 (2) 1 年年は下間り 2 元金 (2) 1 年年は下間り 2 元金 (2) 1 年年は下間の 2 元金 (2) 1 年年は下間の 2 元金 (2) 1 年年は下間の 2 元金 (2) 2	進					て慌てることのないようにさせていきたい。
23 24 23 24 25 25 25 25 25 25 25	路 指		めの自分に必要な情報や知識を得るために、ガイダ	(2) 進路に関する HR や(1) に加えて、1・2 年生にはより具	Δ	そのためにも判断材料となる情報を得る機会
10月で音談も高数音を対すのできた。	キー導		ンスや進路講話を活用する。	体的な進路ガイダンスを 12・2・3 月に行い、進路選択に	11	をなるべく提供できるようにする。
23	ヤー部		(3)発達障害等を抱える生徒を外部機関と連携しなが	向けて意識を高めることができた。		
23	/		らフォローしていく。	(3) 今年度も1名該当者がおり、外部機関と連携して進路		
23	教			決定に向けた支援をすることができた。		
23		資格取得の充実と地域企	(1)課外や補習だけでなく、希望者に対して個人的に	(1)課外・補習および個人指導などを実施し、今年度卒業生		(1)従来の紙媒体による指導に加え、デジタル
23	推	7	指導することで、卒業時には最低 60%、できれば 70%	の乙種取得率は 74%となった。乙種全類取得者は 6 名であ		素材を活用することで学習効果の向上を目指
23	進 化		以上の生徒が危険物乙種を取得と、乙種全類取得表	った。		したい。
23			彰生徒輩出を目指す。	(2)1・2年生は工場見学、3年生はプロ講師による授業をそ	A	(2)見学や講習会後に生徒の意見を聞き、次年
23	字 科		(2)工場見学、企業実習などの実技指導講習会また	れぞれ実施した。なお、生徒の満足度調査は 1 年生に聞い		度の参考にする。
PTA活動の充実	11		は外部講師による授業を各学年とも1回以上実施し、	たところ概ね好評であった。		
23			生徒の満足度が80%以上を目標とする。			
地域とと (1)メールシステム運用の (1)保護者にメールシステムの利用を呼びかけ、メール利用による欠席連絡8割以上を目指す。 (2)権害を整理し、その改善を 図る。アンケート等を活用して運営方法等の改善を図 図る。アンケート等を活用して運営方法等の改善を図 図る。アンケート等を活用して運営方法等の改善を図 と で取り組めるようにする (2)教育環境の保全を意識させるため、学校薬剤師が 実施する水質・照度・空気の各検査を生徒保健委員が一緒に行う。 (2)保健委員の取り組みを「保健だより」に掲載し、生徒が、保健委員との取り組みを「保健だより」に掲載し、生産・委員会にて発表をした。また、保健だよりにも掲載した。1、2年生は自分たちが取り組みたい保健活動を展開し、学校保健安全委員会にて発表をした。また、保健だよりにも掲載した。1、2年生の自発的活動がみられなかったのが課題である。 と で交えた取り組みを関けるを展開し、学校保健委員の取り組みを「保健だより」に掲載し、生産・委員会にて発表をした。また、保健だよりにも掲載した。1、2年生の自発的活動がみられなかったのが課題である。 と で交えた取り組みを関け、 2年生の自発的活動がみられなかったのが課題である。 と で交えた取り組みを関け、 2年生の自発的活動がみられなかったのが課題である。 と での機会を増やす。 (1)教育環境の保全を意識させるため、学校薬剤師が 実施する水質・照度・空気の各検査を生徒保健委員 が一緒に行う。 (2)保健委員の取り組みを「保健だより」に掲載し、生産・要員会にて発表をした。また、保健だよりにも掲載した。1、2年生の自発的活動がみられなかったのが課題である。 と での機会を増やす。 (1)集や市との連携を十分に行うえを行った。			今年度の取り組みを継続し、学校行事などにより多く	メールシステムも活用して適切に案内でき、体育祭や坂工		引き続き、プリントの配布に加えてメールで
部	総		の保護者に参加していただけるよう働きかけをする。	展に例年以上の参加があった。研修旅行は内容や時期を見	٨	の案内、PTA役員会や評議員会での呼びか
型表が少なかったため昨年に続いて中止となった。	務 部			直し申込期間を長く設定して参加を呼び掛けたが、参加希	А	けを行う。研修部会の役割については保護者
大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大				望者が少なかったため昨年に続いて中止となった。		の意見を聴きながら再考する。
た実 (2)行事や学校運営に関 する事項を整理・調整して 円滑な学校運営にのなげ る。 生徒がより主体性を持っ て取り組めるようにする (2)保健委員の取り組みを「保健だより」に掲載し、生 後が保健委員としての自覚と主体性を持って取り組 めるように工夫する。 (1)災害発生時に地域住民の避難場所としての役割 を実施の酸成 変素という。 (2)無負間で連携して業務内容を整理し、その改善を 図る。アンケート等を活用して運営方法等の改善を図 る。 (2)実施した各行事の運営方法に が改善に繋がっているが、行事・関する事項の整理、調整は引き総 が改善に繋がっているが、行事・関する事項の整理、調整は引き総 を反映して運営方法等が改善できた。 (1)教育環境の保全を意識させるため、学校薬剤師が 実施する水質・照度・空気の各検査を生徒保健委員 が一緒に行う。 (2)保健委員の取り組みを「保健だより」に掲載し、生 後が保健委員としての自覚と主体性を持って取り組 めるように工夫する。 (2)実施したおり、昨年度の意見 を反映して運営方法等が改善できた。 (2)実施したおり、昨年度の意見 を反映して運営方法等が改善できた。 (3) 年生は 自分たちが取り組みを、保健を員の役割をこなし、3 年生は 自分たちが取り組みたい保健活動を展開し、学校保健安全 委員会にて発表をした。また、保健だよりにも掲載した。1、2 年生の自発的活動がみられなかったのが課題である。 (4) 実施する水質・照像・空気の各検査を生徒保健委員の活動を表した。朝の日番が受ける欠席連絡はメール利用がほとんどで朝の業務削減が実現できた。 (3) 実施した名行事の運営方法に が改善に繋がっているが、行事・関する事項の整理、調整は引き総 は自分たちが取り組みたい保健活動を展開し、学校保健安全 委員会にて発表をした。また、保健だよりにも掲載した。1、2 年生の自発的活動がみられなかったのが課題である。 (4) 関連する事項の整理・調整は引き総が改善に関する事項の整理・調整は引き総 は方式を使なる会員のに対象を関し、学校保健安全 委員会にて発表をした。また、保健だよりにも掲載した。1、2 年生の自発的活動がみられなかったのが課題である。 (4) 第年を中心とした保健委員のお は方式を関する事項の整理・関連なると関連なる。 (4) 第2 を表になる。(2) 実施した名行事の連携を十分に行う。 (2) 内容や時間配分など協議し、割練になるよう対応する必要が移		(1)メールシステム運用の	(1)保護者にメールシステムの利用を呼びかけ、メー	(1)年度当初は問い合わせの電話などがあったが、5月頃からは		(1)引き続き、メールシステムの利用を呼びか
した信頼 する事項を整理・調整して 図る。アンケート等を活用して運営方法等の改善を図 図る。アンケート等を活用して運営方法等の改善を図 図る。アンケート等を活用して運営方法等の改善を図 図る。アンケート等を活用して運営方法等の改善を図 を反映して運営方法等が改善できた。	ا ح	充実	ル利用による欠席連絡8割以上を目指す。	メールシステムが定着した。朝の日番が受ける欠席連絡はメー		け定着させる。
した信頼 する事項を整理・調整して 図る。アンケート等を活用して運営方法等の改善を図 図る。アンケート等を活用して運営方法等の改善を図 図る。アンケート等を活用して運営方法等の改善を図 図る。アンケート等を活用して運営方法等の改善を図 を反映して運営方法等が改善できた。	連教	(2)行事や学校運営に関	(2)職員間で連携して業務内容を整理し、その改善を	ル利用がほとんどで朝の業務削減が実現できた。	۸	(2) 実施した各行事の運営方法はアンケート
た信頼 さん と	55 務し 部	する事項を整理・調整して	図る。アンケート等を活用して運営方法等の改善を図	(2)各行事実施後はアンケート等を実施しており、昨年度の意見	А	が改善に繋がっているが、行事や学校運営に
生徒がより主体性を持って取り組めるようにする (1)教育環境の保全を意識させるため、学校薬剤師が 実施する水質・照度・空気の各検査を生徒保健委員 自分たちが取り組みたい保健活動を展開し、学校保健安全 変員会にて発表をした。また、保健だよりにも掲載した。1、2 年生の自発的活動がみられなかったのが課題である。 A 3 年生を中心とした保健委員の形との機会を増やす。 (2)保健委員としての自覚と主体性を持って取り組 めるように工夫する。 (1)災害発生時に地域住民の避難場所としての役割 を果たすため、県及び坂出市と連携して、食糧の備 を果たすため、県及び坂出市と連携して、食糧の備 若などを行う。 (2)地域住民・関係機関・自主防災と連携した地域合同の防 A (1)県や市との連携を十分に行う えを行った。 (2)地域住民・関係機関・自主防災と連携した地域合同の防 A (2)内容や時間配分など協議し、 割練になるよう対応する必要があ	た Fi		る。	を反映して運営方法等が改善できた。		関する事項の整理、調整は引き続き検討する。
生徒がより主体性を持って取り組めるようにする (1)教育環境の保全を意識させるため、学校薬剤師が 実施する水質・照度・空気の各検査を生徒保健委員 が一緒に行う。 (2)保健委員の取り組みを「保健だより」に掲載し、生徒が保健委員としての自覚と主体性を持って取り組 めるように工夫する。 (1)災害発生時に地域住民の避難場所としての役割を譲渡した。また、保健だよりにも掲載した。1、2年生の自発的活動がみられなかったのが課題である。 (1)災害発生時に地域住民の避難場所としての役割を要素をした。また、保健だよりにも掲載した。1、2年生の自発的活動がみられなかったのが課題である。 (1)災害発生時に地域住民の避難場所としての役割を要素をした。また、保健だよりにも掲載した。1、2年生の自発的活動がみられなかったのが課題である。 (1)県や市との連携を十分に行うる。 (2)地域住民・関係機関・自主防災と連携した地域合同の防 を果たすため、県及び坂田市と連携して、食糧の備業などを行う。 (2)地域住民・関係機関・自主防災と連携した地域合同の防 を実施するよう対応する必要がある。 (3)地域住民・関係機関・自主防災と連携した地域合同の防 を実施するよう対応する必要がある。 (3)地域住民・関係機関・自主防災と連携した地域合同の防 を実施する水質・照度・空気の各検査を生徒保健委員とはて発表をした。また、保健だよりにも掲載した。1、2年生の自発的活動がみられなかったのが課題である。 (1)県や市との連携を十分に行うるとを行った。 (2)内容や時間配分など協議し、3 は対域性民・関係機関・自主防災と連携した地域合同の防 を実施するよう対応する必要がある。 (3)地域住民・関係機関・自主防災と連携した地域合同の防 を実施すると、2010年の関係機関・10年に対域を関係性を対域を対域を対域を対域を対域を対域を対域を対域を対域を対域を対域を対域を対域を	頼	る。				
整	さ h	生徒がより主体性を持っ	(1)教育環境の保全を意識させるため、学校薬剤師が	1、2 年生は学年ごとの保健委員の役割をこなし、3 年生は		3年生を中心とした保健委員の活動に、1、2年
が一緒に行う。 (2)保健委員の取り組みを「保健だより」に掲載し、生	魅	て取り組めるようにする	実施する水質・照度・空気の各検査を生徒保健委員	自分たちが取り組みたい保健活動を展開し、学校保健安全		生を交えた取り組みを展開し、先輩からの学
部 (2)保健委員の取り組みを「保健たより」に掲載し、生 2年生の自発的活動がみられなかったのが課題である。			が一緒に行う。	委員会にて発表をした。また、保健だよりにも掲載した。1、	۸	びの機会を増やす。
対している。 があるように工夫する。 があるように工夫する。 災害時の地域支援と危機	8 健 部		(2)保健委員の取り組みを「保健だより」に掲載し、生	2年生の自発的活動がみられなかったのが課題である。	А	
グ	学		徒が保健委員としての自覚と主体性を持って取り組			
施 意識の醸成 を果たすため、県及び坂出市と連携して、食糧の備 えを行った。 (2)内容や時間配分など協議し、	グー		めるように工夫する。			
施設では、原本では、原本では、原本では、原本では、原本では、原本では、原本では、原本	< h	災害時の地域支援と危機	(1)災害発生時に地域住民の避難場所としての役割	(1)十分な量の確保ではないが、期限切れの備蓄品の入れ替		(1) 県や市との連携を十分に行う。
整 蓄などを行う。 (2)地域住民・関係機関・自主防災と連携した地域合同の防 A 訓練になるよう対応する必要があ	/ 施	意識の醸成	を果たすため、県及び坂出市と連携して、食糧の備	えを行った。		(2)内容や時間配分など協議し、より実践的な
	整				Α	訓練になるよう対応する必要がある。
	備		(2)地域の自主防災組織などとの連携を深めるため、		•	
部の一部の一部の一体の関係を表現した。	一一		防災訓練を合同で行う。			

	社会人としての規範意識	生徒指導部 人権・同和教育	外部との連携による安全 教育の充実と規範意識の 高揚 人権の大切さや人権問題 についての理解と認識を 深め、課題解決のために 積極的に行動しようとする	講座を年間3回、交通に関するLHRを年間2回実施する。その際、講座の内容を精選し、警察等の外部機関など幅広く講師を招へいする。 (2)現在実施している月1回の校外補導を継続する。 (1)人権課題解決に向けて、さまざまな情報(ニュース)を周知し、生徒間、教員間、生徒-教員間で共有できるようにする。	(1)全校生徒を対象に、安全教育に関する生徒指導講座を3回実施した。また、交通に関するLHRを2回実施した。 (2)計画どおり、月1回の校外補導を実施した。 (1)全校生徒を対象に、DVの防止についての人権講演会を実施できた。また、人権・同和教育に関するHRを毎学期実施できた。 (2)同和問題について現職教育で共通認識を図った。	A	(1)交通に関する講座の実施方法を選定し、交通法規の遵守を定着させる。また、講師についても 警察以外の外部機関についても検討する。 (2)他校との情報交換を密にし、問題行動を未然に防ぐための校外補導を実施する。 人権課題解決への意欲や態度を育成するためのテーマを設定し、教材を提供する。
O 暦 月	識の醸成	※ 機械科	態度を育成する。 工業技術基礎、課題研究、実習を通して、5S「整理、整頓、清掃、清潔、しつけ」を意識した学校生活を送るよう指導する。	に工業技術基礎、課題研究、実習では授業開始の集 合時にこのことについて話をしてから授業を展開す	授業終わりの整理、整頓、清掃はしっかりできた。 しかし、放課後さらに実習室を使用した際、同様のことが 徹底できてなかった。 5 Sを目指すにはまだまだ指導が必 要と感じた。	В	5 Sを目指すには時間を要する。引き続き、工業技術基礎、課題研究、実習の授業開始時間を利用しながら、指導を続ける。授業終わりにも各実習班で周知する。
		生徒指導部	いじめの未然防止及び早 期発見	(1)全校生徒を対象に、いじめに関するアンケートを年間3回実施する。 (2)必要に応じて生徒指導部会を開き、情報の共有に努める。	(1)年間3回のいじめに関するアンケートを実施した。 (2)必要に応じて、生徒指導部会を開き、生徒の状況や情報 などを共有し、指導に生かした。	A	(1)アンケートの内容について見直し、生徒の 実態に応じたアンケートを実施する。 (2)生徒の様子などを常に情報交換を行い、早 期の対応に心掛ける。
	豊かでたくましい心の酒	特別活動	(1)部活動の活性化 (2)活動内容の周知	(1)部活動指導において、入学希望生徒の減少を抑えるためにも本校の特色である、活発な部活動運営を行うために専門指導のできる顧問を配置し、ものづくりと部活動の活性化を目指す。また、外部指導者や部活動指導員などを活用し、より専門的な知識・技術が身に付けられるよう配慮する。 (2)坂工展や坂工見学会等の機会を利用し、各部活動の取り組みを広く周知できるような機会を設ける。	(1)多くの部活動で四国大会、全国大会等に出場し、優秀な成績を収めた。特に、ものづくり技術部における躍進ぶりには目を見張るものがあり、工業高校の特色を生かせた結果となった。 (2)坂工展や新体操部の公開演技会を利用した工業展等、多くの来場者と迎え、本校の取り組みを周知するいい機会となった。	A	継続して専門的指導ができる教員を顧問に配置し、運動部だけでなく、工業教育の分野についてもアピールできるような成果を残す
	涵養	教育相談部	生徒支援に対する質の向上を図る	教員研修として、次の二点を行う。 (1)1年に1回以上の教員研修会を実施する。 (2)学期に1回教員向けの教育相談啓発資料を作成する。	(1) 8 月に外部講師を迎えて全教員対象の研修会を実施した。 (2) SC・SSW それぞれに依頼して、教育相談に関するプリント資料を作成した。	A	(1)常に変化する状況のなかで、その時々に最適な内容で研修を行うことができるように、研修内容を考える。 (2)担任や教科・実習担当の先生方から直接話を聞きながら、今いる生徒への適切な対応に繋がるような資料となるよう、心がける。